

主な がん について

肺がん

たばこの関係が深い

肺がんは、日本人に多くかかるがんであり、死亡者数も多く、特に男性に多いがんです。

肺がんの原因で関係が深いのがたばこで、たばこを吸う人が肺がんになる確率は、吸わない人の4～5倍にもなります。

乳がん

自分で発見することができるがん

まれに男性もなりますが、患者のほとんどが女性です。女性の12人に1人がなるとされ、女性では最も多いがんです。

乳がんは自己チェックで発見できることがあります。乳がんができる乳房内にがんのかたまりができますので、乳房をやさしく円を描くように触ることでしこりの有無を確かめたり、鏡で見て皮膚のひきつれ（くぼみなど）がないかどうかを発見できます。早期発見がされやすいので治りやすいがんでもあります。

セルフチェックの方法



肝臓がん

肝炎ウイルスの感染が主な原因

肝臓がんの主な原因は、B型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスの感染です。医療技術の進歩などで、新たにB型・C型肝炎に感染する人は減っています。

また、お酒の飲み過ぎでおこるアルコール性肝炎や食べ過ぎなどで肝臓に脂肪がたまり過ぎた脂肪肝の人も、肝臓がんになるおそれがあります。

胃がん

日本人に多いがん

胃がんは日本人に多いがんです。

ヘリコバクター・ピロリ菌という細菌の感染が胃の粘膜を萎縮させるなどにより、発がんにかかわっていると考えられています。

胃がんは手術による治療効果が高いがんです。

大腸がん

食生活の欧米化とともに増加

大腸がんは、がんの場所により、結腸がん、直腸がんに分けられます。日本人が多くかかるがんです。

運動不足や肥満、お酒の飲み過ぎは、大腸がんを招きやすいとされます。

子宮がん

子宮がんは、子宮の入り口（頸部）にできるがんと、子宮本体（体部）にできるがんがあります。子宮頸がんの発生原因はヒトパピローマウイルス（HPV）の感染ですが、感染のほとんどは性交渉によるもので、近年、若い世代での感染が増えています。

「感染」も、がんの主要な原因です

右のウイルス・細菌感染は、がんの発生と関係があるとされています。いずれの場合も、感染したら必ずがんになるわけではありません。（それぞれの感染の状況に応じた対応をとることで、がんを防ぐことにつながります。）

国立がん研究センター がん対策情報「科学的根拠に基づくがん予防」より抜粋

ウイルス・細菌の種類	がんの種類
B型・C型肝炎ウイルス	肝がん
ヘリコバクター・ピロリ菌	胃がん

《小児がんについて》 小児がん情報サービス：<http://ganjoho.jp/child/index.html>

がんは基本的には高齢になるほど増えますが、15歳以下の子どもが罹患する、「小児がん」も存在します。代表的な小児がんは、白血病、脳腫瘍、悪性リンパ腫、神経芽腫（がしゅ）などです。

小児がんは、医学の進歩に伴って、治癒する割合が増えています。